

平成21年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文
高等学校の部 最優秀賞



「百聞は一見にしかず」

福島県立福島高等学校 1年 渡邊 葵

「中国ってどんなイメージ？」友達にそう聞くと、返ってくる答えはいつも決まっています。「食品偽装」「危ない所」「あんまり行きたくない国」ひどい時には「汚い国」との答えが返ってくることもあります。テレビや新聞などで報道されるニュースを見聞きしても、必ずと言っていいほど、中国の悪い面が報道されているように感じます。

私は、今年の夏、福島県が主催する「国際貢献リーダー養成講座」の海外派遣研修で、八日間、中国を訪問してきました。今回で二回目の中国訪問でした。

私が初めて中国を訪問したのは、中学二年生の夏です。福島市の海外派遣事業で、初めて海外の地を訪れました。ちょうどその頃も、オリンピックを前にして著しい発展を遂げている一方で、環境汚染や「段ボール入り肉まん事件」などの食品偽装問題がテレビなどで多く取り上げられている時でした。私も実際に、中国に対して悪いイメージしか持っていないまま、不安を胸に中国を訪問しました。

現地の学生さんとの交流の中では、明確に将来の夢や勉強の目的を持って学習に励む学生さんの姿を見、交流したことで、自分との違いに愕然とせざるを得ない場面もありました。著しい発展を遂げている中国の技術力に驚いたこともありました。

でも、やはり、滞在中一日も青空が見えない、水が汚れている、一步裏通りに入るとお金を乞う子供や老人がいる光景を目の当たりにした時の印象の方が強く、出発前に抱いていた中国のイメージが大きく変わることはありませんでした。

私は、国際貢献に興味があったので、帰国後も、世界の貧しい国々で医療活動を行う桑山紀彦さんの「地球のステージ」という講演を聞いたり、二本松にある「JICA」に行き、海外青年協力隊・シニアボランティアとしていろいろな活動をしている方々のお話を聞いたりしました。今までは「よその国のこと」と思っていたことが、実際に自分の目で見聞きしたことによって、「自分にできることはなんだろう」と、強く考えるようになっていました。

そんな時、学校で、今年私が参加している「国際貢献リーダー養成講座」の広告を見つけたのです。この講座は、年六回に分けて開催され、今回は海外研修ということで中国に行ってきました。

新型インフルエンザや食品問題について報じられ、前回の思いもあって、とても不安なまま、再び中国に旅立つことになりました。

私たちはまず、湖北省の武漢を訪問し、日本の大学とは比べものにならないような規模の大学で、学生さんたちと交流しました。私たちは主に日本語科学生との交流でした。ここでまず最初に驚いたのは、生徒たちが何事に対しても興味・関心を持って、

私たちの説明に耳を傾けてくれたことでした。そして、次に日本語がとても上手なことです。あちらでは、英語は小学生の時から習っているようなので、母国語も合わせると三カ国語話せるということになります。すぐに打ち解けて、日本の伝統的なおもちゃで遊んだり中国の民謡を教えてもらったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。

また、北京に移動してからは、「農家女実用技能培训学校」という所で、学生さんと交流をしました。この学校は、家が農家で貧しい家に生まれた女性を対象とし、出世できるように、美容師の技術、コンピュータの技術、裁縫の技術などを無償で教えてもらえる、中国でただ一つの学校です。ここでは、一日十元(日本円で約百五十円)で生活する人々の厳しい現状を聞いたり、格差について聞いたりしました。しかし、実際にそれぞれの教室を見たり、交流したりすると、貧しい生活をしているとは思えないほど明るく、元気で、熱心な学生さんたちばかりでした。私が一番心に残っているのは、通訳の方を通して「日中戦争などの戦争で、日本には悪いイメージがあったけれど、今、あなたたちと話して、日本人に対するイメージが変わりました。」と言われた時です。むこうの学生さんたちは、そのように思ってくれたのです。ほんの短い言葉だけれど、私たちがすべき国際交流の大きな一歩が踏み出せたような気がしました。

学生との交流の中から出発前に抱いていた中国に対する悪いイメージがすっかりなくなっていました。「生まれた国が違い言語が違うだけで、考えること、趣味、楽しいことはいっしょ。」この研修中に、特に感じたことです。

今回、中国に行って、現地の学生さんと交流をしたり、大人の方々の話を聞いたりして、中国は、私が抱いていたイメージとはかけはなれている、とても良い国であることを実感しました。テレビや新聞などでは悪いニュースが報道されやすく、多くの日本人は、中国を誤解しています。「百聞は一見にしかず」と言われるように、見てみないと分からないこともたくさんあります。

中国滞在中、JICA中国事務所と在中国日本大使館を訪れる機会がありました。そこで、どちらの方の話にもあったのは、「中国に対して悪いイメージを持っている日本人が多いけれど、交流を通して、イメージを変えて帰る日本人が多い。」ということです。私もその中の一人です。

私が、今までの経験を通して、そして今回二回目に訪れた中国を見て考えたこと、感じたことは、おそらく、世界中のどの貧しい国々を見ても共通するでしょう。私は、このことを同じ世代のなるべく多くの人たちに伝えていきたいのです。近々行われる学校の文化祭では、ポスターのようにして、私の今までの経験を書き、掲示する予定です。多くの人に知ってもらい、情報を共有することができれば、国際貢献に興味を持ち、私のように、ある国に対して抱いていたイメージが百八十度転換する人が出てくるかもしれません。一人ひとりの自覚と行動が重要な国際貢献では、特に大切なことだと思います。

ある事・物・人などに、固定観念を持って考えていませんか。間違った情報を信じていませんか。「百聞は一見にしかず」です。実際に自分の目で確かめてみることを大切に、これからも、国際貢献・国際交流に携わっていきたくと思っています。